

第6学年1組 国語科学習指導案

日時：令和3年6月16日(水)
場所：6年1組 教室(南舎3階東)
指導者：小林 敬之

1 単元・教材名 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう 笑うから楽しい・時計の時間と心の時間

2 付けたい力(単元の指導事項)

筆者の意図を考えながら読む力。

【思・判・表C(1)ア】

3 既習事項

5年生「想像力のスイッチを入れよう」では、筆者が挙げている事例と意見との関係を読み、文章全体の構成を捉えることができた。また、筆者が事例をどの順序で用いているかについて考えを深めることができた。

4 児童の実態

本単元は、6年生で初めて学習する説明的文章である。6年生の初めての読むこと教材「帰り道」では、比喻表現を用いて登場人物の相互関係の変化を表していることに気付くなど、叙述を捉える力を高めることができた。しかし、文章全体を見通して、どの叙述がどの叙述と関わっているかなど、言葉と言葉を関連させて考える力には弱さが見られる。

5 単元目標

筆者の考えを支える事例の工夫について考えるを通して、「心の時間」の特性に関する事例が、読者にイメージしやすいものや科学的な根拠を示したものなどについて書かれていることに気付き、一川さんが挙げている事例について、意図をとらえ、主張に対する自分の考えを発表することができる。

意図というのは、書き手の考え方のことなんだな。
今までの学習で、主張に対する具体例や根拠を示すことが大切なのは分かっているけど、中村さんや一川さんの説明文では、挙げられている事例がどんな意図で書かれているか考えていきたいな。

第1時【目標】
単元の言語活動を理解し、学習計画を立てることができる。
【本時の課題】
筆者の主張や意図をとらえるための単元の学習計画を立てよう。

【言語活動の特徴】

設定の意図：本言語活動は、発表し合うことを通して、お互いの見方や考え方を知り、自分の考えをさらに深めることができるという特徴がある。そのために、筆者の主張と事例の意図を中心に考えることで、書き手がどのようにして主張を伝えようとしているかについて気付き、自分の考えをもつことができるよう設定した。

児童の意識

- 〈目的意識〉 お互いの見方や考え方を知り、自分の考えを深めるために、
- 〈相手意識〉 学級の仲間に、
- 〈場面・状況意識〉 単元終末に、座談会をして伝え合う場面で、
- 〈方法意識〉 筆者の主張と事例との関係や、書いた意図について自分が感じたことをまとめて発表し、
- 〈評価意識〉 どのような点で自分の考えと共通しているか、または、違いがどこにあるか。

事例の内容を読んでみると、わたしたちでも試しやすく分かりやすいものと、科学的な証拠になるものがあるな。実験結果だけだと、体のつくりのことが読み手によく分からないかもしれないな。体のつくりを説明することで科学的な見方を伝えて、「笑うから楽しい」という主張に、誰もが納得するように考えて書いたのかな。

第2時【目標】
中村さんの主張や、それを支える事例の挙げ方に着目し、二つの事例を挙げた意図をとらえることができる。
【本時の課題】
中村さんは主張を支えるために、二つの事例を用いているのはどうしてだろうか。

第3時【目標】
一川さんの主張や事例に着目しながら、文章全体の構成や、内容の大体を捉えることができる。
【本時の課題】
一川さんの主張と事例の関係に着目して、初発の感想を書こう。

「心の時間」という言葉は聞いたことがなかったけど、事例を読んだら確かになんかそうだなと思うことがあったな。一川さんは、どうしてこの事例を挙げたのだろうか。中村さんと同じように科学的な根拠も書いてあるな。今度は、一川さんの主張を支えるひみつを探りたいな。

第4時【目標】
一川さんが、挙げている事例について、内容を理解することで、主張との関わりを捉えることができる。
【本時の課題】
一川さんは、主張に対してどのような事例を挙げているのだろうか。

一川さんの事例は、全部で四つあったな。よく分かるものもあったけど、正直難しくイメージできないものもあったな。そのことも一川さんの主張の仕方のひみつなのかな。どうして難しいものも書いたのだろうか。

第5時(本時)【目標】
一川さんが挙げている事例について、順序や事例の内容に着目することを通して、四つの事例を用いた意図を捉えることができる。
【本時の課題】
一川さんが四つもの事例を用いたのはどうしてだろうか。

一川さんは、ただ事例を用いるのではなく、主張が伝わるように、誰もが分かりやすい事例を示したり、グラフや図を使うことで読者を引き込んだり、読者に簡単な実験をさせようとしていたりして、様々な意図をもって説明しているんだな。

【今後の見通し】

- 情報 関係をとらえよう「主張と事例」(第7時)
- 「利用案内を読もう」必要箇所を選んで読んだり、複数の情報を組み合わせて考えたりする。
- 『鳥獣戯画』を読む 筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫を捉える。

【目指す児童の姿】

一川さんの主張や事例の内容について、「共感」「納得」「疑問」の立場を示すだけでなく、一川さんが事例を用いた意図を捉え、書き手の意図の素晴らしさに触れた感想を書く姿を目指していく。
また、これから出会う説明的文章に対して、主張を支えるための事例は、なぜこのことが挙げられているのかと、書き手の立場からも文章を考えながら読むことができるようになり、文章の構成や内容だけでなく、筆者の思考を捉えることができる姿を目指していく。

第6時【目標】
一川さんの主張や事例の挙げ方について、共感、疑問、比較の立場から自分の考えをもつことができる。
【本時の課題】
一川さんの文章のひみつについて、自分の考えをまとめよう。

【単元を「書く目標」】
「筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう。」

人によって、納得する部分や疑問に思う部分が違うんだな。一川さんは、人によって感じ方が違うということが分かっているからこそ、いろいろな面から事例を用いることで、多くの人に納得してもらえるように考えて書いたのかな。

【単元の評価規準】

- 〈知識・技能〉
 - 原因と結果などの情報と情報の関係について理解している。(発言・記述)
- 〈思考・判断・表現〉
 - 筆者の主張と事例の関係についておさえ、用いられている言葉に着目し、挙げられている事例について筆者の意図を考えている。(観察・発言・記述)
- 〈主体的に学習に取り組む態度〉
 - 筆者の主張と事例について、言葉を捉えて理解しようと積極的に取り組んだり、事例の効果について日常生活と比較しながら考えたりしている。(観察・記述)